

平成27年度第2回伊勢原市総合教育会議議事録

平成27年11月26日（木）午後1時30分から伊勢原市総合教育会議を議会全員協議会室に招集した。

〔事務局〕教育総務課

〔開催日時〕平成27年11月26日（木）午後1時から午後2時45分まで

〔開催場所〕伊勢原市役所 3階 議会全員協議会室

〔出席者〕市長 高山 松太郎
委員長 渡辺 正美
委員（委員長職務代理者）永井 武義
委員 重田 恵美子
委員 菅原 順子
委員（教育長） 鈴木 教之

〔事務局〕田中教育部長、靱山学校教育担当部長、
山口歴史文化推進担当部長、風間教育総務課長、宮林指導室長、
杉山教育センター所長、志村教育総務課副主幹、
瀬尾教育総務課副主幹

〔公開の可否〕公開

〔傍聴者〕20人

〔経過〕次のとおり

1 開 会

【田中教育部長】

定刻になりましたので、ただいまから平成27年度第2回伊勢原市総合教育会議を開催いたします。

開催に先立ち、傍聴人に申し上げます。本日、受付で資料と一緒にお渡しいたしました注意事項を御確認の上、傍聴をお願いいたします。

2 あいさつ

【田中教育部長】

それでは次第に従いまして進めてまいります。

初めに高山市長から御挨拶をいただきます。

【高山市長】

教育委員の皆様方におかれましては、日ごろから大変教育行政に御尽力をいただいております。また、本日はこの会議に御出席をいただきまして、この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

この総合教育会議であります。新しい教育委員会制度が4月から始まりまして、今年度から開催することになりました。5月に第1回目を開催させていただ

きました。そして、皆様方と伊勢原の教育全般にわたりましていろいろとお話をさせていただいたところでございます。こうした会議が設けられましたこと、これは教育委員の皆様と積極的に意見交換ができるという場を作っていただいたと、私は大変喜んでいただいております。

また、子どもの安全・安心、健やかな成長、いじめの問題等の重大事態に素早く対応することも、この総合教育会議に与えられた大事な役割でもございます。昨年、いじめ防止基本方針の策定をいたしまして、いじめ問題専門調査会が教育委員会に設置をされました。また、再調査会を市長の附属機関として設置させていただき、いじめ問題等の重大事案に対する仕組みを整えたところでございます。

教育委員の皆様を初めといたしまして、教育現場での早期発見、早期対応、あるいは家庭や地域といった全ての方々の御尽力のお陰を持ちまして、決してあってはならないことではあります。これらの調査会を発動するような事態は今のところございません。改めて皆様方にお礼を申し上げる次第であります。

教育に関しましては、日ごろから委員の皆様方に御尽力をいただいております。そうした中で、私が改めて申し上げるまでもございませんが、安心・安全で快適な教育環境であったり、子どもたちが健やかに成長するための諸条件を整えていくことが、私の役割と認識をいたしております。

私が市長に就任をいたしましたときに、最初に現場を見て歩き、そのときに思いましたのは、想像以上に学校施設の老朽化が進んでおり、なるべく早く子どもたちに勉強する環境を整えてあげたいと思い、職員には補助金などの財源確保のための情報収集を積極的にするよう指示をいたしました。私も事あるごとに県や文部科学省に出向きましてお願いをしてきたところでもあります。お陰様で国の経済対策の補正予算なども活用することができまして、平成25年度、26年度の2カ年にわたりまして、6校で校舎の大規模改修を行いました。また、総合運動公園の体育館のつり天井も同時に改修をさせていただきました。今年度におきましては大規模改修まではいきませんが、伊勢原小学校、山王中学校、伊勢原中学校体育館の修繕工事を順次進め、また、竹園小学校も予定してございます。

また、新たな取組といたしましては、モデル的な事業にも取り組んでまいりました。1つには大山小学校での取組でございます。大山の歴史と自然に囲まれた立地、そして小規模校であるという特徴を活かしまして、何か特色のある取組ができないかなと考えておりました。

そういった中で、2020年に東京オリンピックが開催されることになりました。多くの外国人の方々が日本を訪れる機会も出てきたわけでありまして。この機会に大山にも多くの外国人のお客様が来てくれるものと期待をしているところでございます。子どもたちがおもてなしと申しますか、片言の英語で御案内ができれば、すばらしい地域ができあがる、そんな夢を実は持っているところでもあります。

そうした中で現在、大山小学校で英語の授業を拡充した取組を行っているところであります。当初は2年で片言の英語でもしゃべれる子どもを育ててくれというのを教育委員会をお願いをしてまいりました。楽しみにしているところでも

ありますが、いずれにしても、特色のある、独自性、個性のあるものなるべく取り入れて、今後も取り組んでまいりたいと思っております。

また、もう1つのモデル事業といたしまして、子どもの学校以外での課題や、保護者も含めた家庭の問題に対する支援として、福祉の専門家や地域の人材、あるいは教員や警察のOBの皆さん方をメンバーとしました訪問型の支援チームを作りまして取り組んでいるところであります。このようなチームを組んだ支援は、全国的にも先進的な取組だということで、私どもの職員も何回か、全国規模の研修会等で事例発表をしてきたところでもあります。また、文部科学省の職員が本市を訪れ、本市の取組内容を勉強しているようなこともあります。

しかしながら、国は3年間のモデル事業としてスタートさせたわけですが、残念ながら事業仕分けの対象となりまして、モデル期間の1年を残しまして文部科学省の予算が無くなってしまい、現在は本市自前の予算で進めているところでございます。

また、スポーツの分野で申しますと健康づくりがございまして。これについては、子どもたちの体力増強、そして大きくなっても健康でいて欲しいということで、市全体の健康寿命を延ばしていきたいという考えで取り組んでいるところでございます。

また、今年は小学校5・6年生を対象に朝食コンテストを行いました。お母さんと一緒に子どもたちがつくった朝食のコンテストを行い、その表彰式を道灌まつりで行ったところでございます。

また、NHKの朝の番組でやっているケータリングカーを購入しました。国の交付金600万円と、事業全体の事業費の半分を農協に御負担いただきました。運営については、農協にお願いしているところであります。これも先日、農業まつりで正式にお披露目をさせていただきました。

また、その同じ農業まつりの日に、保健所の分室でご覧になられた方もいらっしゃったかと思いますが、健康バスを展示させていただきました。この健康バスを東海大学病院と連携をいたしまして今後走らせます。展示当日は、バスの中に健診器具を積み込み、多くの方に健診を受けていただきました。そのような健康づくりの取組を、食事、健診、スポーツ、運動、これらを組み合わせて、現在、取り組んでいるところでございます。こうした取組の中で、皆様方の御協力をいただきながら、来年も参加を予定しておりますチャレンジデーへ是非参加をしていただき、運動を習慣化するきっかけをつくっていただければと思っております。

いろいろ申し上げましたが、私自身の役割は、冒頭申し上げましたように、より良い教育環境の整備、あるいは教育機会の提供だと考えております。伊勢原の今後の教育のために思うところは、教育委員の皆様方と恐らく一緒だろうと思っておりますので、今後とも皆様方のお知恵をお借りしながら進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

長くなりましたが、本日の会議の冒頭に当たりましての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

【田中教育部長】

ありがとうございました。

続きまして、渡辺委員長、よろしく願いいたします。

【渡辺委員長】

改めまして、こんにちは。日ごろから高山市長には伊勢原市の教育の発展に深い御理解の下、御支援をいただいておりますことに、教育委員一同、心より感謝を申し上げます。

初めに社会教育関係のことですが、先月の10月初めに、伊勢原市で「わかやま国体」のクレール射撃競技が実施されました。和歌山県の職員はもちろんのこと、伊勢原市からもスポーツ課の職員を初め、多くの市職員、市民のボランティアの運営協力の下、1,700人を超える一般の方が競技をご覧になり、滞りなく開催されました。

私も観覧させていただきましたが、神奈川県施設とはいえ、このような立派なスポーツ施設があり、全国規模の大会がこの伊勢原市で開催されていることに感心し、大変誇らしくも思った次第です。

また、チャレンジデーに多くの市民の方が参加し、市民総合体育大会は各種の競技ごとに実施され、冬場の駅伝、大山登山マラソン等も準備されており、多くの市民の皆さんの参加が見込まれている状況です。

10月下旬からは、公民館や文化会館で市民文化祭も開催され、多くの市民の日ごろの活動の成果である作品展示や各種の発表が行われました。来春も例年どおり公民館まつりが企画されているという状況です。

図書館や子ども科学館でも、本来業務はもちろん実施されているわけですが、各種のイベントを企画・実施して、伊勢原市民の文化の向上に努めているという状況です。

それから、伊勢原市の文化財の整理・活用に向けては、本日の協議内容にもありますが、伊勢原市歴史文化基本構想のパブリックコメントが現在実施されているなど、様々な取組が進んでいる状況です。

このような社会教育分野の活動は、高山市長、伊勢原市の行政が、健康文化都市を目指すという方向性の下でこそ、元気に活動できているものと考えております。感謝申し上げます。

次に学校教育関係です。この2、3年、先ほど市長の挨拶の中にもございましたが、小学校・中学校の屋上防水、外壁工事等の改修工事が大幅に進んでおります。私も学校に在職中は、雨天時の雨漏りや、もろくなった外壁等の施設の老朽化で大変悩んでいたということを思い出します。高山市長の下で様々な財政上の措置をしていただき、計画を前倒しして速やかに取り組まれていることに感謝申し上げます。

次に学校教育の現状についてでございますが、小学校・中学校の学校教育について、毎日、伊勢原市の子どもたちは学校で元気に学業に励んでいます。その一方、現代社会が様々に変化し、新たに生まれてきた課題解決のため、しばしば学

校教育に期待と責任が寄せられているのも、日本中どこをとっても現状は同じだろうと思います。

しかし、教職員が努力してもなかなか課題解決に至らない現状もございます。ここで、現在の学校教育で大きな課題となっております実態を2点ほど、少し詳しくお話したいと思います。

1点目は、よく言われます先生方の多忙化の実態についてです。先生は毎日40人を目安にした学級の中で、子どもたちに対し、約1日に4時間から6時間位の教科学習の授業指導を行っております。授業を行うためには、事前に教材研究を行い授業計画を立て準備をするわけですが、どの教科についても授業の前に行いますので、ここにも多くの時間が費やされています。さらに、通信簿という形で成績評価が出てきますが、絶対評価という中で、特に現在はペーパーテストだけではなく、授業中の日々の学習活動を整理し、記録して、さらに幾つかの観点別に整理する作業も日々の中で行われているのが実態です。

このような学習指導業務が本来的な業務なわけですが、絶えず質的にも指導内容の向上を日々工夫しながら行われており、この部分にほとんどの昼間の時間を費やしている状況です。

この他に、国の学習指導要領に示された学級指導、学級会活動、道徳、総合的な学習の時間、学校行事、学年行事、食事指導、委員会活動等があり、さらに重要度が増している児童生徒指導、進路指導、部活動指導があります。

こうした中で、先生方にとってもう1つ大事なものが、学校教職員間の情報共有や指導力向上のための各種打合せがあります。職員会議、研究会、研修会、そして学校運営をするための様々な役割、さらに他校との連携に伴う出張等が加わっている状態です。

さらに近年は、子どもたちが活動している授業への質的な転換、昔のような先生が教え込む授業ではなくて、子どもたちが積極的な活動をしながら学習を進めていく授業への転換を小中学校で図っており、そのための研究が必要になってきているという状況です。

さらにいじめの問題に対する対応、不登校、不適応の子どもたちへの対応、特別支援教育の充実、道徳教育が新たに大事な課題としてクローズアップされてきている状況、そして小学校での英語活動の導入への対応も迫られています。このような状況が学校現場にはあります。

さらに、近年は家庭との連携の充実が以前にも増して不可欠なものとなっています。学校からは、いわゆる学校通信、学年通信、学級通信もそうですし、授業を見に行ったり、また、保護者面談を以前にも増して行ったり、電話連絡等も様々な形で行っている大事な事項となっております。現在、かなりの時間がそういうところに使われています。このような中で、先生方の多忙化ということが言われているという現状です。

2点目が、過剰反応社会での家庭対応です。価値観の多様化や、家庭の孤立化、それから少子化等も相まって、保護者の中には我が子の学校生活での出来事に対して自分の価値観を最優先して判断したり、先生の対応や指導に納得せず、不満

を募らせ、事態が長期化するような状況も起こっています。

このような状況は、当該の子ども同士、それから保護者同士、先生との関係において好ましくない状況、影響が生まれてきております。そして、このような問題化した事態に対応するため、多くの先生が長い期間にわたり関わり、その事態の解決のためだけに、教育活動のかなりの時間が割かれている学校がいくつか出てきています。先生の精神的な疲労も大変なものだと思います。

また、このような状況の中で、先生方の教育指導の在り方にもかなりの影響が出てきております。日々の諸活動の中で問題化するような事態が起こらないように、過剰に対応せざるを得なくなります。結局、子どもたちに心の感動を与える個性豊かな積極的な教育指導、教師本来の仕事がなかなか行えなくなってきている状態が実際には起こっています。

このような先生方の多忙化、過剰反応社会での家庭への対応などが、現在の学校教育の大きな課題ではなかろうかと思ひ、これらの課題解決に努めていくことも大切なことではないかと考えます。

学校教育そのものは、それぞれの課題に即して、教職員が一生懸命尽力されていると思いますが、このような課題があるということをし少し詳しく話をさせていただきました。

少し長くなりましたが、挨拶とさせていただきます。

【田中教育部長】

ありがとうございました。

【田中教育部長】

それでは議題に入りたいと思います。進行は高山市長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【高山市長】

それでは、私の方に進行を任せられましたので、本日の協議に入る前に、本日の会議の目的などについて話をさせていただきます。

現在、来年度28年度の予算編成作業を進めているところです。この時期、教育委員の皆様方にも御理解をいただきたいのは、毎年であります。財源不足だということでもあります。

先ほど挨拶の中で申し上げましたが、できるところから手を付けてまいりました。老朽化対策であります。これからもできるものはしっかりとやっていきたいと思ひておりますが、我慢をしていただく部分も当然ございますので、その点は御理解をいただければと思ひます。

今後の予算編成作業では、総合計画の地域戦略事業プランに計上している事業を着実に進めていくつもりでございます。その中でも優先順位を見極めながら、国・県の財源確保に全力を挙げていきたいと思ひております。皆様方の御理解をお願い申し上げます。

――協議事項（１）伊勢原歴史文化基本構想の策定及び推進について――

【高山市長】

それでは、本日の協議事項の１つ目のテーマになっております伊勢原市歴史文化基本構想の策定及び推進についてでございます。

歴史・文化につきましては、ご存じのように伊勢原の特色の一つであり、大きな財産でもあろうかと思っております。御承知かと思いますが、現在これらを使った施策展開を行っております。また、観光振興、シティセールスなども進めてまいりつものでございます。

既に御承知と思いますが、新たな観光の核づくりに平成２４年２月に県から認定を受けました。そうした中で、私自身、大山は随分変わってきたのかなと思っております。皆さん方はどうお感じになっているかは分かりませんが、つい先日の３連休の最後の２３日には若干天候が悪かったのですが、学校の御協力をいただいで駐車場として使用した山王中学校のグラウンドは、ほとんど満車というような状況まで利用されたわけでございます。それほど今、大山に多くの観光客が訪れているというのが現状でもあります。

そうした中で、これからさらに外国人のお客さんを呼び込もうという取組を進めており、多くのお客さんに来ていただけるだろうと思っております。ご存じのようにケーブルカーが５０年ぶりに新しくなりました。また、今年の６月１５日に、ミシュランガイドブックに大山が掲載されました。私どもは、非常に大きな追い風だということで喜んだわけでもあります。

さらには、平成３０年には新東名高速道路のインターチェンジが開設になります。伊勢原の認知度は非常に県下でも低い方です。何とかそれを克服していかないと、伊勢原の発展はなかなか難しいと思っております。そのインターが開設したときに、企業を呼び込み、若い人に呼びかけたいが、これまでは、「伊勢原に来てよ、住んでよ、見に来てよ」と呼びかけをしたときに「伊勢原ってどこ？」と、そこから始まるわけです。そんな中で是非、伊勢原を売り込みたいということで、これまで努力を続けてきたわけです。

そうしたことで、私は平成３０年が一つの大きな転換期になるのかなと思っております。それは御承知のように、先日、堀江家の敷地・建物全てを私ども伊勢原市が引き受けました。寄贈していただきました。それをその平成３０年に向けてどう活用するか、しっかり考えていきたい。また、来年の今ごろには日向薬師が完成いたします。

お陰様で先ほど申し上げました大山であります。今年の特徴としましては、お客さんが大型観光バスで相当来ていただいております。その何十台かは伊勢原駅周辺で買い物をしていただいております。このように多くの方々に伊勢原に、日向に、大山に来ていただいております。伊勢原全体にその波及効果がそろそろ現れてくるのだろうなと思っております。

是非そうした中で、教育にもそれらの様々な観点から取り組んでいければと思

っております。

また、今後ですが、今年度末までには日本遺産の認定に向けて、私どもは今、教育委員会が全力を挙げて取り組んでおります。しっかりと全国100カ所の日本遺産の仲間入りをしていきたい。そうした中で、また大きく展開が変わってくるのだろうと私は思っておりますので、日本遺産の認定を起爆剤としたまちづくりをしていきたいと思っております。

委員の皆様方には、是非これから学校での取組等々、また、生涯学習での取組等々、皆さん方のいろいろお考えがあるかと思っておりますので、是非その辺をお伺いできればと思います。どなたでも結構でございます。

【永井委員】

永井でございます。伊勢原の歴史・文化遺産というのは、先人たちが私たちに残してくれた郷土の宝であり、その特徴を生かしたまちづくりという視点は重要であると私は考えております。

教育基本法にある教育の目的「伝統と文化の尊重、郷土を愛し他国を愛する心」を養うことにつながることでありますし、伊勢原市教育ビジョンの理念「豊かな自然や歴史・文化遺産を継承し、その魅力を発信し、地域づくりに活かしていく」こととも合致しているのではないかと思います。

教育委員の職掌として申し上げるのであれば、伊勢原の持つ歴史・文化といった財産を活かし、学校教育や社会教育などの分野において学習の機会に資することができると思います。延いてはその人づくりが、観光振興やまちづくりなどにつながっていくことだと私は考えております。

英語教育を教科の域を超えて期待される多くの観光機会に活かすには、まだ少しその道のりは遠いと感じられますが、地域との連携、その受け皿となる多方面の組織などが機能すれば、子どもたちの可能性も広がり、主体性を持った機会、例えばガイド役ですとか観光大使、そんなことも考えられるのではないかと思います。

現在、特色ある教育モデル事業を通して、コミュニケーション能力や発信力といったものが培われつつあります。「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」という孫子の兵法にありますが、グローバル化への対応、また、生きる力やキャリア教育といった視点においても「己」、つまり地域の持つ魅力を知り、慣れ親しみ、本物に触れるということがより一層重要になってくると考えられます。

ワールドカップラグビーで日本の活躍ぶりが注目されましたが、伊勢原の魅力を多くの子どもたちに理解してもらうことにより、ジャパンウェーならぬ伊勢原流を確立していくことにもつながっていくのではないかと思います。

具体的な学習機会、能や狂言、雅楽体験、太鼓、フィールドワーク、体験学習など、それら様々なことについては、これから検討が必要かと思われませんが、今までどおり様々な機会を利用し、総合の授業の活用や職業体験学習などを利用するなど、地域の協力、あるいは企業や大学との連携も視野に広げられればよいのではないかと考えております。

【高山市長】

ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。何でも結構でございますので。

【菅原委員】

伊勢原の歴史・文化遺産を活用した有意義な取組というものは、私も大変よく見させていただいているし、感じさせていただいているところです。例えば改築中の日向薬師宝城坊とか、遺跡発掘現場の見学、そしてその報告会が頻繁に行われて参加者もとても多いということ。これは市としては情報発信の大きな機会であるし、参加者にとっては貴重な体験の場となっている素晴らしい取組だと思います。

また、インターネットで配信されている伊勢原文化財サイトというサイトも、大変充実していて、見やすく情報豊富であると感心しています。

それから、伊勢原ウォーキングガイドですが、これもウォーキング、スポーツ、文化財、観光が一つにまとめられた総合的なガイドで、市の各部局や東海大学との協働による素晴らしい産物であると思います。

私は元々の文化財よりも、やはり人材という資源がとても伊勢原には豊富なのではないかと感じております。例えば観光ボランティアや手づくり絵本の会など、市民のボランティアがそれぞれの興味や特技を活かして、伊勢原の文化の継承、発展に大変貢献してくださっていると思います。先日も図書館で手づくり絵本の会の作品展がありまして拝見しましたが、その中で、伊勢原の昔話「乙女地蔵」であるとか、あるいは大山寺の「良弁」の伝説などが素晴らしい絵と、それにつけ加えられているお話とともに本になっていました。そのようなものを手作りして、たくさん作っていただくのが大変であれば印刷して、各小学校の図書館に置くなりすると、小学生や中学生にとっても温かい伊勢原の伝統というものが伝わるのではないかと思います。

観光ボランティアは、今年度から外国語ガイドという講座が始まりまして、私もそれに参加させていただいているのですが、先日も三ノ宮神社から三段の滝にかけて天気のよい秋の日に歩いてまいりましたが、大変ベテランの伊勢原在住の通訳案内士の方がお越しになってくださっているのですが、その方がおっしゃるには、外国人はこの何げない田んぼの風景、カラスウリなどもなっているのが見えたのですが、こんなものを「これなあに」という感じで、そういう何げない風景にとっても興味を持つものだ。そういうものが本当に伊勢原には豊富にあるなど、歩きながら感じました。

私は車に乗れないものですから、自転車で伊勢原中を回るのでありますが、例えば市域の「やま」「おか」「まち」「さと」でいうと、自転車で走りやすい平らな「里」の部分「あやめの里」であるとか、渋田側沿いのあたりを自転車で走っていると本当に気持ちがよくて、大山を背にしたり、反対に大山に向かったり、その風景、特に田んぼが広がる風景というのは本当に心癒やされる風景だな。可能ならばあの辺にサイクリングロードを整備してレンタサイクルでも置き、そして、ウォーキングガイドと同じような形でサイクリングガイドでも作っていただければ、市民あるいは市外からの方たちもとても喜んでくださるのではないかななど

と思いながら、自転車で走っております。

このように文化財ではなくても伊勢原には素晴らしい潜在力がありますので、行政と市民とが協働し、これからの課題、歴史遺産というものを活用することを続けていければいいなと思いますし、私もそれに参加していきたいと思っています。

【重田委員】

菅原委員と同じ様ですが、以前見せていただいた「いせはら 史跡と文化財のまち」という史跡文化財を網羅されたものですが、本当に伊勢原というのは文化芸術の宝庫だと思います。ただ、それが残念ながら全国的にはあまり知られていないということです。やはり今後は、観光地として盛んなまちづくりを行っていくことも大変大事だと思います。

それにはどうしたらいいかという、先ほどのレンタサイクルをしたりというのも大事ですし、私の考えでは、全国的に発信するならばバスツアーで、いろいろな点在している文化財を廻るといったツアーを組み、たくさん宣伝、発信していくことも大事なのではないかと思っています。

いろいろな観光地に行きますと、美味しい物が食べられるレストランやお土産屋さんなど、その土地の楽しいお店がたくさんあると思います。大山にはありますが、まだまだ伊勢原にはそういったものが欠けていると思っています。もっとその点をこれから開発していく必要があるのではないかと思っています。

「伊勢原に来てよかった。伊勢原に来て楽しかった。また来たい。」というリピーターが現れるような、そしてインパクトのある発信の仕方、予算的な問題もあるでしょうけれど、受け入れる設備を少しずつ整えていくということが大事なのではないかと思っています。

【渡辺委員長】

今の歴史・文化遺産の活用についてですが、伊勢原は健康文化都市を目指すという宣言をして半世紀近くたっている中で、これまでも様々な文化財や歴史資料の整理が行われているわけですが、ここで体系的に整理しておくことは大変大切なことかなと感じております。

来年度の日本遺産への登録が上手くいきますことを念じている次第なのですが、そんな中で、今進んでいる状況をより多くの市民の方に知っていただくための情報活動、広報の活動、それから厚い冊子でなかなか見切れない部分もありますので、ダイジェスト版とかパンフレットなどの上手い活用で、市民の方により多く知っていただくということが大事なことかなと感じております。

それからもう一つは、ここで大山というものがメインに出てきていますが、伊勢原の各地には、もちろん日向地区や比々多地区もそうですが、それぞれに歴史と文化がございます。市民が「ああ、大山のことか」と思うのではなく、大山を軸にしなごら是非、他の地域も含めて伊勢原全体として盛り上げて伊勢原の文化・歴史をアピールできるような方法で取り組んでいく必要もあるのかなと感じている次第です。

今進めている方向性は教育委員としても大変うれしく思っており、いくつか思

いついたことを申し上げました。

【高山市長】

いろいろ御意見をいただきました。確かに我々も反省することが随分あるのかなと思っています。やはり冒頭申し上げましたように、伊勢原にこれだけの歴史的、文化的な資源がありながら発信力が弱かったのかなと思っています。私が例えば東京の人、横浜の人から「伊勢原ってどんなところ、何があるの」と聞かれたときに、いろいろなものがあり過ぎてすぐに出てこないという状況があります。

先ほど、ブランド力とカリピーターの話がありましたが、伊勢原は全国的に見ても、これだけ温暖な気候で災害が少ないところで、何でも採れ、食べられる。「じゃあ、伊勢原って何がブランドなの。」と言われますと、すぐ「これです。」という特別なものが出てこないのが今までだったのだろうなと思っています。

また、これは時代の一つの大きな変化だと思いますが、昔は多くの小学生、中学生が様々な機会に幾度となく大山を訪れたと思います。今は海外かディズニーランドです。でも昔はそういう教育がされてきたから、自分の生まれた故郷のブランドというものが頭の中に残っているのかなと思っています。

伊勢原で育った子どもは、これから日本中、世界で活躍する舞台が出てくると思います。そうしたときに、私が生まれたところはこういうところなんだよ、こんな素晴らしいものがたくさんあるんだよ、そういうことを私自身広報マンの1人として、自分の生まれ故郷をPRできる立派な大人を育てる必要があると思っています。

是非、その辺もお願いできればと思いますし、また、今年私が県下の市長会の場で、大山に子どもたちを連れて来てくれないかと各市長さんをお願いしたところ、海老名市から今年は来てくれました。今後もいろいろなルート、例えば大山から日向や比々多、比々多から例えば他のところでも、いろいろなルートがつくれると思います。ルートの途中には魅力的なものがたくさんありますので、そのルートを作って、例えば県下の教育長会議ですとか、教育委員長の会議ですとか、私どもの市長会ですとか、様々な機会にPRをしていくのも必要なだろうと思っています。いろいろなチャンネルを使いながら、自分たちのまちの良いところを出していくことが必要だと思います。

先ほどウォーキングマップの話もございましたが、これも市長会の席上、会議の始まる前にテーブルに全部置かせていただき、最後の時間でPRをしてきました。やはりそういった日常のちょっとしたことがいろいろなことにつながっていくのだろうと思っていますから、是非、子どもたちも中に入ってもらって、一生懸命伊勢原の良さを学びながら学習をしていってもらえたらなと思います。

やはり先人の方々が一生懸命残していただきましたので、私どもがそれをしっかり守り、そして次の子どもたちに、私どもがさらに磨きをかけて引き継いでいくことが私どもの役割だと思っていますので、是非、委員さん方にもお力をお借しいただきたい。それには、先ほど申し上げましたように、私どもは全力を挙げて、日本遺産の認定に向け、今まさに努力をしているところでございます。是非、

皆さん方の御協力をお願い申し上げます。

何かこの件で、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、時間の関係もありますので、次のテーマに移りたいと思います。

――協議事項（２）子どもの健やかな成長について――

ア、伊勢原に愛着と誇りを持った子どもの成長

【高山市長】

協議事項２として、子どもの健やかな成長についてでございます。まずは一つ目のテーマの伊勢原に愛着と誇りを持った子どもの育成ということですが、これは既に教育委員の皆さん方、さらには学校の先生方もしっかりと、いつも肝に銘じて行っていると思っております。

伊勢原の特性は、恵まれた自然、伝統文化です。これら自然や伝統文化に触れる教育を引き続き子どもたちに対して実践して欲しいと思っております。

やはり郷土に誇りを持ちませんと、先ほども申し上げましたが、どこかに行ったときに、「自分のまちにはこういうものがあるんだ。自分の育ったところはこういうところなんだ。」と言えませんが、自信を持って故郷のことを語る大人になって欲しいという願いから取り上げたテーマです。皆さん方から何か御意見などありましたらお聞かせいただければと思います。

【渡辺委員長】

学校教育の分野から愛着を持った子どもを育てていくということに関してですが、伊勢原の小・中学校で子どもたちが教材として使うものに関しては、文化財課、教育センターなどで様々な資料を提供しております。特に小学校で、それから小学校から中学校へとつながるような文化財の資料、このような独自資料を社会の授業で使ったり、総合的な学習の時間で活用しながら、実際の体験をしていくというようなことも行われております。

例えば大山の話題が出れば、我々大人は交通手段がいろいろとありますので、普段から身近に感じていて、我がまちの大山と認識していますが、例えば小田急線の南の方に暮らしている子どもは、日常的には大山は遠いものなわけですが、見えはしますが、すぐに行って文化を感じとるようなものではないのです。

最初に子どもたちが感じる我がまちとは、自分たちのすごく身近なところであり、そこから少しずつ広がっていくようになります。今も実際に学校で行われていますが、これからも同様に、学校の先生方が発達段階に応じて教えていくことを意識し、ある段階に来たときには、伊勢原や大山はこういうところが素晴らしいと、いくつも言えるようになる教育が行われていくことを期待しております。

【菅原順子】

先日、重田委員と一緒に大山小学校の大山フェスティバルに伺いまして、そのときに５年生が「さるかに合戦」をテーマにした大山狂言を演じるのを拝見しま

した。地元で熱心に指導して下さる方がいて、狂言の装束を着て演じていたわけですが、そのような形で伝統が受け継がれているのを見てとてもうれしく思いました。また、「大山こま」についても、永井委員さんが御尽力されていますが、全小学校が参加する競技大会となっております。ラミラダから先生がお2人いらっしゃったときに一緒に大山小学校に伺って、その際に子どもたちが一生懸命こま回しを教えていました。そのように伝統が子どもたちに傳承されているだけでなく、さらに新しさが加えられて発展しているというのはとてもうれしいことだと思います。

大山登山の話がありましたが、まず「隗より始めよ」で、市内の小中学生が必ず大山の頂上まで登る機会があればいいなと思っています。

やはりイベント以上に大切なのは、日々の教育であると思います。アメリカのケネディ元大統領の1961年の就任演説に、「国があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるかを考えようではないか」という有名な言葉があります。大人たちが誇りと愛着を持てる郷土を守り、築いていくというのはもちろんですが、子どもたちには、未来の社会を築いていくのは自分たちだという自覚と主体性を持ち、無い物ねだりではなく、有る物探しをする人になってもらいたいと思います。それは郷土に対しても人に対しても、不満を抱いて去っていくのではなく、良いところ、今あるものを見つけ、それを土台にし、足りない部分に対して自分に何ができるかを当事者として主体的に考え、実行できる人に育ってもらいたいと思うのです。

このような当事者意識、主体性を高める、そういった日々の教育が実践されれば、郷土に対する主体的な関わりというものは自然に形成されてくるのではないかと思います。

理念的なことを申し上げましたが、例えば伊勢原では成人式も当事者が主体になって行っておりますし、中学校では携帯電話とかスマートフォンの使い方について上からの押しつけではなく、生徒会が中心となって生徒たちが決めるという方針になっていると聞いております。

また、最近、私がある市内の小学校を見学したときに心に残っていることがあります。4年生の掲示板に全員の作品が掲示されていたのですが、それが全て「よかったな」で始まるのです。「よかったな、お母さんがご飯を作ってくれて」「よかったな、お母さんが僕を産んでくれて」とか、「よかったな、靴が僕を歩かせてくれて」というようなものがありまして、私は大変いいなと思って、担任の先生に伺ったら、4年生の国語の教材に、詩人のまど・みちおの「よかったなあ 木や草が ぼくらの まわりに いてくれて」という詩を読んで、その後、自分たちでもよかったことを探してみようということで、みんなが書いたそうです。これの前には、詩人金子みすずの「ふしぎ」という題の詩があって「わたしは不思議でたまらない、 黒い雲から降る雨が、 銀に光っていることが」で始まる詩があって、やはりこれについても、「ふしぎだな」というのを頭にしてみんなが書いたそうです。

やはり、「よかったな」というように今あるものに気づいて、感謝しながらそれ

を大切にし、さらに自分の力で発展させ、また、周りの現象に対して素直に「ふしぎだな」と感じ、どうしてなんだろうと思ったことに対して自分で調べたり、人に聞いたりして主体的に学んでいく、この姿勢を小さいときから学ばせ、身につけさせた上で、目を地域や故郷に向けることができれば、おのずと郷土への愛着と誇りが湧いてくるのではないかなと思いました。

【高山市長】

他にいかがでしょうか。

【重田委員】

伊勢原を愛する大人に育てて欲しいということが前提なのですが、つまり、成績が良かったり、個々のそれぞれの能力の優劣に重きを置くのではなく、才能や個性を重んじ、それを引き出し伸ばしてあげられるような、そういった環境が非常に大事だと思っております。勉強の嫌いな子、一生懸命やってもなかなかついていられない子、最終的にどうしても成績が上がらない子はあるわけで、そういう子でも何か一つ興味を発見して、その分野において伸ばせることが可能であれば、それが自信となって本人のステップアップに通じていくのではないかと思います。

この前、菅原委員と大山小学校の大山フェスティバルに行きましたが、児童数が大変少ない大山小学校の子どもたちは、一人ひとりが役割分担を持っていて、それぞれが主役でもありました。しかも協調性を持って一つのをみんなの力で完成させていました。社会に出た後も協調性のある人間として成長していってくれると思います。自己中心的な人間ではなく、いくら成績がよくても社会の秩序を乱すようなことではいけないので、みんなから好かれる思いやりのある人間、みんなと協力し合える人間形成というものは非常に大切だと思います。その人間を育てることは、延いてはその子どもたちが伊勢原を愛し、伊勢原の発展に尽力してくれるものと考えております。

また、伊勢原は農業、工業に勤務する方はもちろん、大学の方、様々な職種の方々が生活しており、そして歴史的な文化遺産、伝統的な文芸なども多く、また、豊かな自然環境がありますから、これらのものと、それぞれの家庭環境とが融合した中に育つ伊勢原の子どもたちは、多方面に可能性を秘めていると思っております。その子どもたちの特性を引き出し、将来伊勢原をリードする人間を育成していくことが非常に大事だと思います。それには私たち大人も伊勢原のことをもっと知らなければいけないと思っております。私もまだまだ知らないことも多いので、これからもっと勉強しなければいけないと思っております。

【永井委員】

先ほどの歴史文化基本構想の意見と重なる部分があるのですが、伊勢原の魅力を存分に感じてもらえる機会、つまり歴史や文化、自然など、本物に触れる、本物体験をすることが、私は最も大切だと思っております。自分自身の小中学校の頃の経験というものを振り返ってみますと、あのような体験をして良かったなと思っております。非常に記憶に残っており、そういうことが愛着や誇りにつながってくる出発点になるのではないのかなと思います。

もちろん、中学校の行事で行っている職業体験なども非常に重要な機会ではないかと思います。伊勢原で行われている様々な仕事を体験することにより、それを子どもたちが自分自身の頭で考え、肌で感じるができるからです。

また、郷土の歴史を学ぶこと、これは伊勢原独自の教材等もありますので、そういったことを活かしていただきながら、実際に存在した先人について学習することも大切なのではないかと考えております。

【渡辺委員長】

子どもたちが伊勢原を知る、体験する、つながる場所だとか、人間性を育てるといった話であったかと思います。市長から何か御意見をいただければと思います。

【高山市長】

ありがとうございます。本当に昔と今は違うなと思ったのは、先日、来年度採用する市職員の最終面接を初めて行ったのですが、そのときに「あなたは伊勢原をどのくらい知っているの」と聞いたのですが、6割7割が「知っています」と答えます。「どこで勉強したの」と言うと、「ネットです」と。ああ、これはほとんど知らないんだなと。現実の社会はそうなんだと思っています。

先ほど重田委員の方から、自分自身があまり分かっていないというお話がありましたが、私もこの立場になって伊勢原を再度見つめ直したときに、ここで生まれ育って65年にもかかわらず、「えっ、こんなところがあったの」ということが随分まだあるというのが現実です。

やはり、まだまだいろいろな方の力を借りてやっていかなければいけないと思っています。私が記憶に残っているのは、三ノ宮神社のお祭で、昔は学校を半日で帰れて、うれしくて学校を飛び出してお祭りに行ったものです。それがずっと今につながっているんです。これは日本の文化だと思うのです。ですから、その地域でやっていることをしっかりと覚えさせるには、まずそこに参加することだと思います。是非、そういった機会を子どもたちに与え続けていただければと思います。

先日、時間をいただいて金沢に行ってきました。今、北陸新幹線ですごく賑わっていますが、以前、大河ドラマが放映されたときにはどーんとお客さんがあって、それからどーんと沈んで、そして今また活気を取り戻しているという状況だそうです。泊まった翌朝、朝早く起きたので兼六園を散策しました。非常に広いです。そこで多くの方々が掃除をしていました。この方々はどのような方々なのですかと聞いたら、市民がボランティアでやっている。その方が言うには、「金沢というところは加賀百万石、前田家が400年前に作って、その歴史の中で我々は生かされている。だから金沢には前田家があり、そこに兼六園があって、その歴史の中でずっと金沢は存在しており、ここが廃れたら一緒に我々も廃れなければいけないので、ここは大事にしていきます。」とおっしゃり、連綿とその清掃作業は続いているようです。

やはり地域の人たちが、しっかりと子どもにそういったことを教えていく必要があるのだろうなと感じてきたわけですが、故郷を愛することができれば、心豊

かな人材にもなってくれるでしょうし、また将来の伊勢原をしっかりと担ってくれるだろうと思っています。是非、期待していきたいと思います。

イ、子どもの学力向上に向けた取組

【高山市長】

それでは最後のテーマに移りたいと思います。学力テストについてはいろいろと取りざたされているわけですが、子どもの学力向上に向けての取組については、保護者も大変関心が高いところだろうと思っています。

そうした中で、委員の皆さんから何か具体的な良い方法、あるいはお考えをお聞かせいただければと思います。

【永井委員】

毎年行われている全国学力・学習調査を例に挙げてお話をしたいと思います。

どうしても私たちは結果の数字に、先生も親も本人たちもそうだと思うのですが、一喜一憂してしまふ。それが心情ではないかなと思います。先生方の御指導や家庭での学習状況、そういったものも様々な角度から分析がされているわけですが、今の教育環境を含めた様々な分析というのは大切なのですが、視点を変えてちょっと考えてみますと、点数を採れるようにしたらどうなのかなと私は考えてみました。

つまり、対策を講じてみたらどうなのかということです。子どもたちに事前に例題集とか過去問題に慣れさせて試験に臨んでもらい、高い点数を採れることによって、それが子どもたちの大きな自信につながっていくのかなと思っています。

現在、広島で中学校の校長をしている中塩秀樹先生の著書を前に読んだのですが、定期試験で点数を採れるようにするため、試験当日の1校時目を学習時間に当て、試験は実際の2校時目、3校時目に行うということで、それが成績アップにつながったということがその著書に書いてありました。そして、この学習方法の根本には脳科学、脳の性質を利用した記憶の定着、つまり復習を繰り返すことで記憶を保持する力をつくる。あるいは記憶を思い出す力を高めることが、この学習法で引き出されているということです。復習がいかに大切かということ、覚えたものを思い出すことが大切だと書かれておりました。

家庭に起因する課題が非常に今は多いと思いますが、ゲーム、テレビ、ビデオ、DVD、あるいはスマートフォン、そういったもののために家庭の中での時間がとれないというのが家庭の中での原因だと思いますが、調査結果によりますと、現在、伊勢原では少し読書の時間が少ないと感じております。短時間でも集中した読書の習慣化は必要だと思います。また、普段の学習では、漢字や算数ドリル、数学の脳トレーニング、英単語の暗記など、短時間集中の学習を繰り返すことによって効果が上がるのではないかと考えております。

最後につけ加えさせていただきますが、義務教育は頭の力、体の力、心の力をバランスよく育てる一番大切な時期にあると思いますし、早寝・早起き・朝御飯を今後も徹底して行う。また、明るく元気な挨拶運動、マナーの向上も大切なこ

とですので、今後も積極的に取り組んでいって欲しいと思っています。

【鈴木教育長】

学力向上をどう捉えるかはいろいろな考え方があると思いますが、基本的には統計です。やはり学力の一端がそこでわかる。だから時系列で把握していくということです。それから御指摘のとおり、お子さんたちは普段あのような方式のテストに慣れていません。だから事前対策をやったほうがいいという御指摘でございますが、多分、既に各校でそれぞれ工夫してやっていたというものが実態だと思います。

結論から申し上げますと、県内のどこの市町村も学力では悩んでおりますが、私が言うのもおかしな話ですが、比較的県内のレベルでは伊勢原市の水準は悪くないです。それは多分、現場の先生方が努力されている結果であろうと私は考えています。

【渡辺委員長】

今の学力のことにに関してですが、伊勢原の先生方が実際にどのように授業をやっているか、どのように教えているか、どのように研究をしているか、どのような研修をしているかといったことについて、昨日、成瀬小学校の研究発表を見に行ってきたのですが、学校ではいろいろ工夫しているのだなと教育委員みんなが感じました。結構、近隣の市町と比較しても、伊勢原の先生方は研究なり研修をよくやっているのかなと思っています。

もう1つは、子どもたちへの点数だけの指導ではなく、例えば部活動指導などでも、養護の先生も事務の先生も含めた全ての中学校の教職員が何らかの形で関わりながら指導をしている。そんな中で、勝ち負けにとらわれるだけでなく、人と関わったり協力したりする大切さ、諦めない心を育てるといような、まさに生きる力を育てるといったことも実際には行われていきます。

学校教育における学力向上の問題に関しましては、先ほど挨拶の中でも話をさせていただきましたが、結局は先生方が子どもたちと直接向き合える時間をどれだけ多く確保するかが、大きな課題になるのではないかと思います。

業務の多忙化の問題で、先生方の向き合う時間をなかなか保証できない部分があります。加えて保護者対応などに過敏に対応せざるを得ない状況で、過剰な意見を言うてくる保護者に対し、先生方が結構悩み、相当な時間がとられている現状があります。こういった状況は、次への教育活動の展開で結構マイナス要因になっているという話を学校からも聞いています。

そんな中で、専門的な知識を持って臨機応変に相談、対応できるようなシステムが今後必要になってくるのではないかと感じており、課題となっております。

【高山市長】

ほかによろしいでしょうか。

【菅原委員】

学力テストのことで言うと、昨年、大阪大学の志水先生という方が『「つながり格差」が学力格差を生む』という本を出されていて、その中で触れられているのですが、秋田や福井という全国学力テストの成績が良い県の特徴として、3つの

つながりがあるということ。1つ目は離婚率が低い。つまり家庭と子どもとのつながり。それから持ち家率が高い。つまり地域と子どもとのつながり。3つ目は不登校率が低い。つまり学校と教師と子どもとのつながり。この3つのつながりの強さというものが挙げられています。

先ほど市長が触れられていた社会教育課が中心になって行っている地域人材家庭教育支援チームの取組というのは、学力向上の観点からも大変有意義であると思います。

子どもに責任の無い生活の基本となる部分を安定させた上で、学業でも運動でも安心して落ちついて励むことのできる環境を整えた上で、その子なりに、その子のレベルで「分かった」「できた」という経験をたくさん積み重ねさせて、自信と自尊感情ということを育てていけば、さらに「分かりたい」「できたい」という、学ぼうとする力が付いてくると思います。既にどれだけのものを学んだかという学んだ力だけではなくて、これから学ぼうとする力というものも大切な学力であると思います。

【高山市長】

ありがとうございます。

基本的に私は健康が一番だと思っております。ただ、そればかり言っておられません。伊勢原の地の利を活かした、自然と心豊かな周りの人々の環境の中で子どもを育てていければなと思っております。

先生方のそれぞれの御苦勞、今の時代背景からしまして本当に大変だろうと思っておりますが、是非これから御協力をお願いしたいと思います。

先ほども早寝・早起き・朝御飯のお話がありましたが、歳とともに今はばっちり私はこれできています。しかしながら、昔を思うと親にしょっちゅう起こされてたなと思っております。

いずれにしても、いろいろこういう議論を重ねながら、今後この会議を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

それでは事務局、よろしくお願いたします。

【田中教育部長】

皆さん、ありがとうございました。これで、用意いたしました日程は全て終了いたしました。これをもちまして、平成27年度第2回伊勢原市総合教育会議を終了させていただきます。大変お疲れ様でした。

午後2時45分 閉会